

〔巻頭〕

環境科学研究機構の発足に際して

相 磯 和 嘉*

かねてから、本学学部間共同研究組織のひとつとして、企画立案されていた環境科学のための特別事業費が昭和47年度予算で若干認められた。これを柱として、環境科学の研究機構を設置することが評議会で承認され、その運営のための委員会が4月に正式に発足した。いうまでもなく環境科学とは、人間の生存にかかわる生活環境全般の保全のための総合的学問であるから、関連する学問分野は広汎に亘り、ひとつの総合大学の全学部研究所が共同して行なわなければ成果は期待できないので、学際研究の課題としてふさわしいものと思われる。

本計画は昭和46年の初めに各部局より研究者が集って構想を練り、全学に呼びかけたところ80名ほどの研究者が参加してきた。大学で行なう環境研究はどうあるべきか、どのような組織が適当かを話し合ったが、やはり環境保全に対する理念の確立、環境汚染を防止するための環境基準の設定の基礎となる原則の研究に主力をおくべきであることが合意され、また本学の置かれている位置からして、千葉県という地域社会を研究の現場とすべきであることも話された。

取り上げられた研究課題は

- (1) 環境汚染物質の生体におよぼす影響
- (2) 環境保全、調節に関する生態学的、地質学的ならびに社会科学的研究
- (3) 環境汚染の測定およびその評価に関する研究
- (4) 廃棄物処理の技術開発に関する研究
- (5) 首都圏の一環としての千葉県の環境計画の考え方などがあげられている。そのほか教養部学生に対する

総合講座の開設、地域社会に対する開放講座の開設、研究会、研究発表会などが計画されている。

医学部からは吉田教授、香月教授らが当初から計画に参加してきているが、本来医学が重要な役割を占めている研究でもあるので、医学部の全教官に関心をもってもらい、多くの方々の参加と協力をお願いしたい。

なお、とりあえず本部5階資料室に本拠をおき共同研究室として旧留学生部の建物の一部を利用する予定になっているが、もともと所属学部の研究室で研究を実施するのをたてまえとしている。昭和47年度の運営委員会のメンバーは次の通りである。

委員長	学 長
副委員長	評議会内第3小委員会より 選出された委員
	山根 靖弘 (薬)
委 員	吉田 亮 (医)
	渡辺 昌平 (病)
	鈴木 伸 (工)
	宮崎 元夫 (園)
	高原 光 (理)
	清水馨八郎 (教)
	前田新太郎 (人 文)
	藤原喜久夫 (腐)
	中野 芳彦 (教 養)
	藤代 光雄 (工 短)
	加藤 博 (養成所)

* 千葉大学学長